

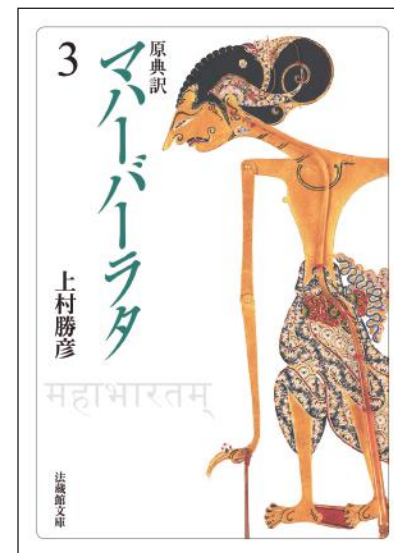
【法蔵館文庫】

原典訳 マハーバーラタ 3

インド古典

上村勝彦訳
▼文庫判・並製カバー・568頁・定価二、二〇〇円

2026年1月刊行



古代インドに産声を上げ、いまなお人々の心に生き続ける世界最長の叙事詩。信頼すべきサンスクリット原典訳の待望の復刊。【全8巻】

【3巻あらすじ】 賭博に負け、森で暮らすことになったパーンダヴァ五王子と共通の妻ドラウパディ。神々から武器を得るため北方へ旅立ったアルジュナは、シヴァ神を満足させたことで最強兵器ブラフマシラスを獲得し、武器や舞踏などを学びながらインドラの世界で五年を過ごす。一方ユディシテイラは賭博ですべてを失ったナラ王の物語を聞く。聖地巡礼の途中ビーマは神猿ハヌーマットに出会い、クベーラ神の眷属である羅刹や夜叉を討伐する。

【目次】

家系図

主要登場人物

マハーバーラタ関連地図

第3巻 森林の巻(ヴァナ・パルヴァン)

- (29) 森林の教え(第一章―第十一章)
 - (30) キルミーラの殺害(第十二章)
 - (31) 山岳民(キラータ)(第十三章―第四十二章)
 - (32) アルジュナ、インドラの世界へ行く(第四十三章―第七十九章)
- ナラ王物語
- (33) 聖地巡礼(第八十章―第一百五十三章)
 - (34) ジャタースラ殺し(第一百五十四章)
 - (35) 夜叉との戦闘(第一百五十五章―第七十二章)
 - (36) 大蛇(第七十三章―第七十八章)

【訳者略歴】

上村勝彦(かみむら かつひこ)
一九四四年、東京浅草に生まれる。一九六七年、東京大学文学部卒業。一九七〇年、同大学院人文科学研究所(印度哲学)修士課程修了。サンスクリット詩学専攻。元東京大学東洋文化研究所教授。
主な著訳書に、『屍鬼二十五話』(平凡社東洋文庫)、『カウティリヤ実利論』(岩波文庫)、『インド神話』(ちくま学芸文庫)、『始まりはインドから』(筑摩書房)、『インド古典演劇論における美的経験』(東京大学出版会)、『バガヴァッド・ギーター』(岩波文庫)、『インド古典詩論研究』(東京大学出版会)、『真理の言葉 法句経』(中央公論新社)などがある。
二〇〇三年、逝去。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
上村勝彦訳	法蔵館
原典訳 マハーバーラタ 3	定価 二、二〇〇円
ISBN : 978-4-8318-2715-9 C0198	住所
お名前	お電話

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp